

2025「競技者必携」審判の部 改訂・修正点

P36

5. 審判委員会申し合わせ事項

3. 競技場について

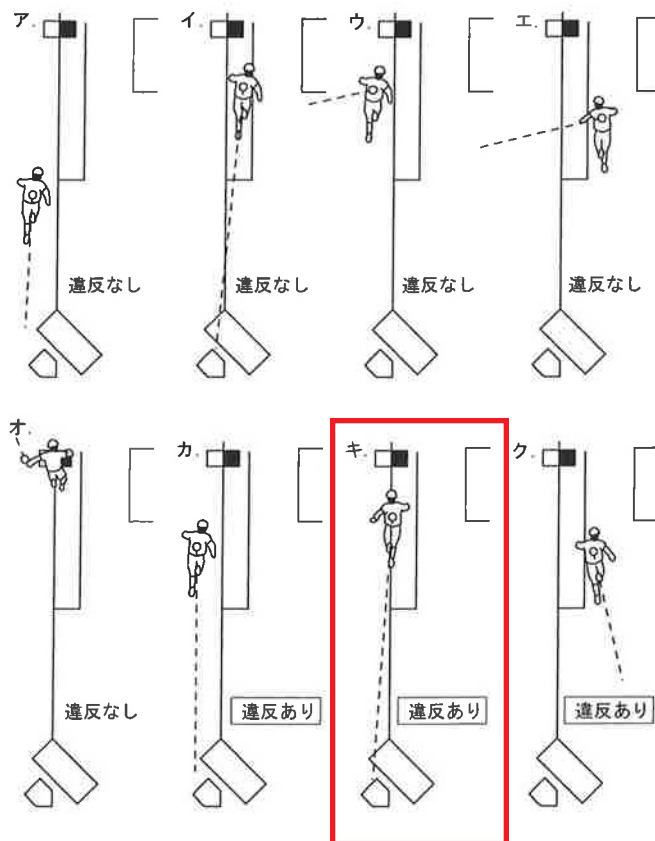
(4) スリーフットレーン違反
について

※改訂理由(修正理由)

現行(注)を(注1)とし、(注2)を
新設。

キ. に関する解説を追記した。

(4) スリーフットレーン違反について



(注1) ウ・エ・オは、送球の方向と打者走者の走る方向が異なり、妨害行為とはならない。

(注2) キ.はファウルライン上を走っているため、妨害行為となる。

※ライン上はフェア地域に含まれ、スリーフットレーン内ではない。

P38

5. 審判委員会申し合わせ事項

4. 用具について

(5) 使用球

※改訂理由(修正理由)

大会使用球(試合球)については、試合前、チームに貸与しないことになっているが、一部大会・開催地によって対応が異なるケースが散見されるため、対応を明文化し、意思統一を図った。

(5) 使用球

審判員は、使用前に手でこすって滑りを止めておくこと。

また、試合前、チームに大会使用球(試合球)を貸与し、練習等に使用させてはならない。

P39

5. 審判員申し合わせ事項

5. プレイヤーと交代について

(3)ウ

※改訂理由(修正理由)

(3)ウ の後に脱字(「.」が抜けていた)があり、修正した。

5. プレイヤーと交代について

- (1) 大会要項によるベンチ内の人数の点検確認をする。
- (2) 球審は、試合中、打順表を保持しなければならない。
- (3) 選手交代の通告

ア. 球審は、プレイヤーの交代の通告を受けたら、記録員に伝え、放送員が直ちに場内放送を通じて発表しなければならない。相手チームのベンチに告げに行く必要はない。

なお、放送設備のないときは、本塁付近から記録員、相手チームに分かるように大声で発表すればよい。

交代の通告は、先に交代して退く選手（OUT）から通告し、その後、交代して新たに入る選手（IN）を通告する。

（ユニフォームナンバーも含む）

イ. 監督がいるにもかかわらず、他のコーチが選手交代を通告しても、これを受理してはならない。

ウ. 打順表の最終確認終了後であれば、プレイボール宣告前であっても、その交代は認められる。（この交代はスターティングプレイヤーの変更ではなく、通常の選手交代と同様に扱う。交代した選手が次に出場する場合には「再出場」となる）

(注2) テンポラリーランナーを使用した場合、テンポラリーランナーに代走を起用することはできない。ただし、テンポラリーランナーが出血・負傷したときのみ、正規の交代として選手交代を行うことができる。また、その場合、テンポラリーランナーを起用する前の投手・捕手を再び走者に戻すことはできない。

(注3) (注1) (注2) のような場合、テンポラリーランナーを交代させるには、正しい控え選手と交代させなければならない。

P41

5. 審判委員会申し合わせ事項

5. プレイヤーと交代について

(5)テンポラリーランナー

※改訂理由(修正理由)

テンポラリーランナーの交代は出血・負傷の場合のみ行うことができ、その場合は正規の交代となること等を明記し、再確認を促すこととした。

P45

5. 審判委員会申し合わせ事項

8. 打撃について

(12)フェンス際の飛球の捕球について

イ. に補足・追記

※改訂理由(修正理由)

フェンスに衝突しながら捕球した際の説明文を追記することで分かりやすく整理した。

(12) フェンス際の飛球の捕球について

ア. 捕球直後、フェンスに衝突して、そのはずみで落球したときは、捕球とはみなさない。

(ア) 球が場内に落ちたときは、ボールインプレイである。

(イ) 球が場外に落ちたときは、ホームランである。

イ. 場内で捕球した直後にフェンスに衝突し、フェンスが破損したり倒れたりしたために、球を確捕したままフェンス上に転倒したときに、身体の一部でも場外に触れたときは捕球後場外とする。

ウ. ネット・フェンスが体圧でふくらんだ変形部分は場内とするが、球を確捕したままネットの上に倒れたときも場内捕球である。

また、ネット・フェンス上にいるときはボールインプレイであるが、片足でも場外に出たときはボールデッドとなる。

P47

5. 審判委員会申し合わせ事項

10. 審判主任・副審について

※改訂理由(修正理由)

(2)の後に、審判主任の任務を追記し、各球場・試合会場で起こったトラブル等の報告義務を明記・再確認し、(3)とし、以下の項番を繰り下げた。

10. 審判主任・副審について

- (1) (公財)日本ソフトボール協会主催大会では、各球場に審判主任・副審を置く。
- (2) 審判主任は、試合中の審判員のルール適用の誤り、監督の抗議などを直ちに解決するため、担当審判員とともに責任を持つ。
- (3) 審判主任は、その球場で起こったトラブル等、報告が必要と思われる事項を副審判長に、副審判長は審判長に報告しなければならない。
- (4) 副審は、アウトカウント、ボールカウント、得点を常に確認して、もし間違いがあったときは、直ちに球審に連絡する義務がある。
- (5) 副審は、常に両チームの打順表を所持し、打撃の順序、プレイヤーの交代(投手、DP、再出場等)、控え選手に注意しなくてはならない。
- (6) 副審の席は、記録員と十分な連携を保つことのできる位置に設置する。

P79

7. 審判員の基本動作

故意落球

コール・シグナル

※改訂理由(修正理由)

R8-2項〈効果〉8~15に準ずる形で文章表現を改めた。

故意落球 故意落球、バッターアウト	トラップトボール ノーキャッチ
球審は前に出る。 手またはグラブに触れてから故意に落としたかどうかを見極める。 ・無死または一死のとき ・走者が一塁、一・二塁、一・三塁、満塁のとき(走者が一塁にいるとき) に適用される。	飛球が野手に触れることなく一度地面に触れたかどうかを見極める。
球審は、“ボールデッド”とコールしてから右手で野手を指さして“故意落球”とコールし、続いて打者走者に向かって“バッターアウト”のコールとゼスチャアをする。	“ノーキャッチ”とコールし、セーフのシグナルを出す。

P80

7. 審判員の基本動作

ツーベース

コール・シグナル

※改訂理由(修正理由)

R8-4項〈効果〉10に準ずる形で文章表現を改めた。

審判用語	打球と進塁 ツーベース	ホームラン
姿勢と構え	打球が、間接にフェンスを越えたか、または競技場外に出たかを確認する。	打球が、直接フェンスを越えたかどうかを確認する。
コール・シグナル	確認した塁審は、“ボールデッド”とコールし、右手を高く挙げ2本の指を立て“ツーベース”とコールする。 球審もこれに同調する。	確認した塁審は、右手を頭上に伸ばして手を握り、時計回りに水平に円を描く。

<p>P84</p> <p>7. 審判員の基本動作</p> <p>守備妨害(インターフェアランス)</p> <p>コール・シグナル</p> <p>※改訂理由(修正理由)</p> <p>他の項目との整合性を図り、文章を整理し、分かりやすく書き改めた。</p>	宣告用語	安全進塁権 ツー・ベース スリー・ベース	守備妨害(インターフェアランス) インターフェア・ランナーアウト
	姿勢と構え	<p>送球・投球が、ボールデッドになる場所に入ったかどうかを見る。</p> <p>送球またはフェアの打球にグラブなどを投げて、当てたかどうかを見る。</p>	<p>○本塁付近のプレイ 球審は腰を落として見極める。</p> <p>○走者の場合 塁審は腰を落とし、両手を大腿の付け根付近に置いてプレイを見極める。</p>
	コール・シグナル	<p>ボールデッドのシグナルを示し、“ボールデッド”とコールし、右手を挙げ2本の指で“ツー・ベース”とコールする。(投球の場合はワン・ベース)</p> <p>球に当たったことを指さしたのち、“ディレードッドボール”のコールとゼスチュアをする。</p>	<p>球審は、両手を高く挙げ(タイムのシグナル)、“ボールデッド”とコールし、打者または走者を右手で指さして“インターフェア・バッターアウト”あるいは“インターフェア・ランナーアウト”のコールとゼスチュアをする。</p> <p>塁審は、ボールデッドのシグナルを示したのち、“ボールデッド”とコールし、妨害した走者を右手で指さして“インターフェア・ランナーアウト”のコールとゼスチュアをする。</p>

<p>P85</p> <p>7. 審判員の基本動作</p> <p>インターフェア・バッターアウト</p> <p>コール・シグナル</p> <p>※改訂理由(修正理由)</p> <p>他の項目との整合性を図り、文章を整理し、分かりやすく書き改めた。</p>	インターフェア・バッターアウト	
	○観衆の場合 野手が飛球を捕らえようとしたとき、観衆が妨害したかどうかを見極める。 打球または送球に対して、観衆が妨害したかどうかを見極める。	○その他の妨害 審判員が故意か偶然かを判断して、成り行きにするか、ボールデッドにするかを決める。
	<p>“ボールデッド”とコールし、“インターフェア・バッターアウト”のコールとゼスチュアをする。</p> <p>その後、適切な処置をとる。</p>	

<p>P89</p> <p>7. 審判員の基本動作</p> <p>プレイの中断</p> <p>コール・シグナル</p> <p>※改訂理由(修正理由)</p> <p>文章に整合性を持たせた。</p>	プレイの中断 タイム	宣告の時機を見極めて前に出る。
	<p>前に出て、両手を挙げて“タイム”とコールする。</p> <p>球審は左手でマスクを外し、そのままマスクとともに挙げる。</p> <p>他の審判員も直ちに同調する。</p>	

以上が2025年度版「競技者必携」審判の部の改訂・修正点である。

P5

もくじ

「参考」タイプブレーク説明の放送
原稿の頁数を追加

※改訂理由(修正理由)

2024年度版「競技者必携」から「参考」として「タイプブレーク説明の放送原稿」を復活させて掲載していたが、「もくじ」に頁数の記載がなかったため、頁数を明記し、追加した。

2024

2. 基本的な動き	99
3. 留意事項	99
4. 外野への飛球を追いかけた場合の動き	100
5. 打球がヒットの場合の動き	108
9. 審判員の位置および動き（4人制）	111
1. 責任分担	111
2. 留意事項	111
3. 外野飛球の場合の動き	112
4. 内野ゴロの場合の動き	120
5. 打球がゴロで外野に抜けたとき、明らかなヒットのとき、 または外野審が入った場合の動き	120
6. 塁審の基本的な飛球に対する責任判定区分	121
10. 投手板の踏み方・踏み出し方	122
11. スローピッチ・ソフトボール	124
1. ファストピッチとの主な違い	124
2. スローピッチ・ストライクゾーン	126
3. スローピッチの審判で特に留意すること	127

2025

2. 基本的な動き	99
3. 留意事項	99
4. 外野への飛球を追いかけた場合の動き	100
5. 打球がヒットの場合の動き	108
9. 審判員の位置および動き（4人制）	111
1. 責任分担	111
2. 留意事項	111
3. 外野飛球の場合の動き	112
4. 内野ゴロの場合の動き	120
5. 打球がゴロで外野に抜けたとき、明らかなヒットのとき、 または外野審が入った場合の動き	120
6. 塁審の基本的な飛球に対する責任判定区分	121
10. 投手板の踏み方・踏み出し方	122
11. スローピッチ・ソフトボール	124
1. ファストピッチとの主な違い	124
2. スローピッチ・ストライクゾーン	126
3. スローピッチの審判で特に留意すること	127
参考 タイプブレーク説明の放送原稿（例）	128

掲載頁数を明記し、追加

2025「競技者必携」記録の部 改訂・修正点

P147

3. 公式記録員手引

3. 試合前に必要なこと

(2) 試合前に準備すること

9) の文章を修正

※改訂理由(修正理由)

試合開始時刻だけでなく、「終了時刻」の計時記帳も同様に大切な事柄であるため、追記した。

全員が記入されているか確認します。

6) 確認が終了したならばスコアカードに、先攻チームを表ページに、後攻チームを裏ページに、打撃順に従って守備位置、プレイヤー名、ユニフォームナンバーを記入します。

7) 大会名、年月日、球場名、天候、審判員名など、試合開始前に記入を終え、開始を待ちます。

8) 試合前のフィールディングのとき、放送係の紹介アナウンスを聞きながら、守備位置、ユニフォームナンバーに誤りがないかを確認する余裕がほしいものです。

9) 試合開始・終了時刻の計時、記帳を忘れがちです。

第1試合の場合は始球式が行われることがあります。試合開始が宣告され、始球式です。開始時刻を何時にするか、疑問が生じるところですが、始球式はあくまで試合のセレモニーであって、試合時間に入れる必要はないものと考えます。

始球式後、投手は5球の投球練習を行います。その後のプレイボールが試合開始時刻です。

P148

3. 公式記録員手引

4. 大会期間中の発行資料

※改訂理由(修正理由)

大会期間中の発行資料として「スタートリスト」を作成、発行しているため、その実状に合わせ、追記した。

4. 大会期間中の発行資料

2024

発行資料	一般大会	日本リーグ	国際大会
1 打順表	打順表を配布する パソコン編集の打順表を配布	打順表を配布する パソコン編集の打順表を配布	パソコン編集の打順表を配布
2 速報	一般大会 掲載例の様式 学生大会 主催者の様式	決められた様式の速報を使用	決められた様式の速報を使用
3 組合せ表・戦績表	組合せ表を報道機関へFAXまたはメールで送信する	戦績表を報道機関へFAXまたはメールで送信する	記者席へ提供 必要に応じ報道機関へFAX送信
4 スコアカード	暫定版 必要に応じて提供 完成版	記者席へ提供 刺殺・補殺の記載は不要 報告書用 全項目を記入	記者席へ提供 刺殺・補殺の記載は不要 報告書用 全項目を記入
摘要			和文・英文のそれぞれの様式の資料を同時に提供

4. 大会期間中の発行資料

2025

発行資料	一般大会	日本リーグ	国際大会
1 打順表	打順表を配布する パソコン編集の打順表(スタートリスト)を配布	打順表を配布する パソコン編集の打順表(スタートリスト)を配布	パソコン編集の打順表(スタートリスト)を配布
2 速報	一般大会 掲載例の様式 学生大会 主催者の様式	決められた様式の速報を使用	決められた様式の速報を使用
3 組合せ表・戦績表	組合せ表を報道機関へFAXまたはメールで送信する	戦績表を報道機関へFAXまたはメールで送信する	記者席へ提供 必要に応じ報道機関へFAX送信
4 スコアカード	暫定版 必要に応じて提供 完成版	記者席へ提供 刺殺・補殺の記載は不要 報告書用 全項目を記入	記者席へ提供 刺殺・補殺の記載は不要 報告書用 全項目を記入
摘要			和文・英文のそれぞれの様式の資料を同時に提供

赤枠囲み部分が2025新規追記部分

P150

3. 公式記録員手引

6. 大会速報

※改訂理由(修正理由)

例示する大会速報の差し替えを行った。

6. 大会速報

令和6年度 全国高等学校総合体育大会ソフトボール競技大会(女子)

《大会速報》 試合番号 47

会場所在地: 長崎県

第4日	2024年07月25日	決 勝	大村市総合運動公園 運動広場A
開始時間: 10時00分	終了時間: 11時30分	中断時間: 00時間00分	試合時間: 01時間24分

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計
青空学園高等学校	0	0	1	0	1	0	0	1							3
新島県立日本海高等学校	0	0	0	0	0	2	0	2x							4

青空学園高等学校	新島県立日本海高等学校	青空学園高等学校	新島県立日本海高等学校
(投 手) 和田 美和 小椋 めぐみ ●和田 美和 (捕 手) 赤尾 奈津代	(投 手) 工藤 さつき ○林 由佳 (捕 手) 山下 幸代	(二)大西 弘子② 長打(本塁打・三塁打・二塁打)	(三)三井 小百合

戦評

日本海高等学校 逆転サヨナラで初優勝！

青空学園高校は3回一死後、代打吉元の三塁強襲安打と大西の三盗間安打でチャンスを開き、坂井の一二塁間適時打で1点を先制。5回には大西、赤尾の長短打に守備の乱れから1点を加えた。

一方、日本海高校は6回、一死二塁から三井の右中間三塁打などで2点を奪い、そのまま延長に突入した。

青空学園高校は8回表、梶田の犠牲フライで1点を勝ち越したが、その裏、日本海高校は藤森の右前安打で再び同点に追いつくと、山下の二塁内野安打で藤森が生還し、逆転サヨナラで念願の初優勝を遂げた。

録審	小野 恭子	副審1	山本 琴音
一塁塁審	上川 香織	副審2	
二塁塁審	芝田 華	記録員	小池 知里
三塁塁審	森 さやか	放送員	谷 恵美

P151

3. 公式記録員手引

【記録1号】

※改訂理由(修正理由)

「投手の記録」<記録5号>
「打撃・守備の記録」<記録6号>を全チームに配布・送付することをわかりやすく明確にした。

2024男子決勝トーナメントの記録に差し替え

赤枠囲み部分が2025修正部分

【記録1号】

大会結果報告書

記録1号

大会名 第53回日本男子ソフトボールリーグ 決勝トーナメント

年月日 令和6年11月9日～10日

会 場 鴻巣市、上谷総合公園野球場(フラワースタジアム)

公益財団法人 日本ソフトボール協会 記録委員会 記録長 遠藤 正人
副記録長 矢口 和正

報告書類

☒ 組合せ・立ち上がり表(トータルスコア記入) <記録3号>

☒ 試合結果(イニングスコア等・準決勝以降) <記録4号>

☒ 投手の記録 (全チーム) <記録5号 全チーム>
(規定投球回数以上) <記録5号順位別>

☒ 打撃・守備の記録 (全チーム) <記録6号 全チーム>
(規定打席数以上ベスト30) <記録6号順位別>

☒ スコアカードの写し (決勝および準決勝)

P154

3. 公式記録員手引

【記録5号】

※改訂理由(修正理由)

今年の男子決勝トーナメントの記録に差し替え、＜記録5号＞を全チームに配布・送付することを新たに追記した。

2024男子決勝トーナメントの記録に差し替え

赤枠囲み部分が2025新規追記部分

【記録5号 全チーム】

大会名：第53回日本男子ソフトボールリーグ 決勝トーナメント
投手の記録 (チーム全試合) 登録試合数：3 チーム名：ダイワアクト

順位	氏名	登録番号	登録試合数	打数	打点	得点	安打	二塁打	三塁打	本塁打	盗塁	犠打	犠飛	エラー	併殺打	アウト	試合数
1	ダイワアクト	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21
2	チームの合計	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21

【記録5号順位別】

大会名：第53回日本男子ソフトボールリーグ 決勝トーナメント
投手の記録 規定投球回数 4回以上

(記録5号順位別)

順位	氏名	チーム名	登録試合数	打数	打点	得点	安打	二塁打	三塁打	本塁打	盗塁	犠打	犠飛	エラー	併殺打	アウト	試合数
1	ダイワアクト	ダイワアクト	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21
2	チームの合計		21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21

【記録6号 全チーム】

大会名：第53回日本男子ソフトボールリーグ 決勝トーナメント
打撃・守備の記録 (チーム全試合) 登録試合数：3 チーム名：ダイワアクト

順位	打撃	守備	氏名	登録試合数	打数	打点	得点	安打	二塁打	三塁打	本塁打	盗塁	犠打	犠飛	エラー	併殺打	アウト	試合数
1	ダイワアクト	ダイワアクト	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21
2	チームの合計		21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21

【記録6号順位別】

大会名：第53回日本男子ソフトボールリーグ 決勝トーナメント
打撃ベスト30 規定打席数 4打席以上

(記録6号順位別)

順位	打撃	守備	氏名	登録試合数	打数	打点	得点	安打	二塁打	三塁打	本塁打	盗塁	犠打	犠飛	エラー	併殺打	アウト	試合数
1	ダイワアクト	ダイワアクト	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21
2	チームの合計		21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21

2024男子決勝トーナメントの記録に差し替え

赤枠囲み部分が2025新規追記部分

2025「競技者必携」総務の部 改訂・修正点

P9

競技会運営に関する注意事項

別表 ベンチ入りできる人数

※改訂理由(修正理由)

エルダー大会が日本協会主催大会として「復活」したことにより、「種別」(競技会)の一番上の欄に「エルダー」を追記した。

別表 ベンチ入りできる人数

2024

種 別 (競技会)	引 率 責任者	監 督	コーチ	スコアラ	選 手 (以内)	備 考
実業団・クラブ・教員・レディース・エルデスト・壮年・実年・シニア・ハイシニア・総合・一般男子・大学		1	2	1	25	(注) 1
高 校 総体 選抜	1 1	1 1		※1 ※1	17 25	(注) 2
中 学 校	1	1	1		18	(注)3、4
中 学 生	1	1	2	1	25	
都道府県対抗中学生		1	2	1	18	
小 学 生	1	1	2	1	25	

別表 ベンチ入りできる人数

2025

種 別 (競技会)	引 率 責任者	監 督	コーチ	スコアラ	選 手 (以内)	備 考
実業団・クラブ・教員・レディース・ エルダー ・エルデスト・壮年・実年・シニア・ハイシニア・総合・一般男子・大学		1	2	1	25	(注) 1
高 校 総体 選抜	1 1	1 1		※1 ※1	17 25	(注) 2
中 学 校	1	1	1		18	(注)3、4
中 学 生	1	1	2	1	25	
都道府県対抗中学生		1	2	1	18	
小 学 生	1	1	2	1	25	

赤枠囲み部分が
2025新規追記部分

P14

競技会運営に関する注意事項

チーム登録規程

第5条 チームの登録

登録に関する記述を修正

※改訂理由(修正理由)

チーム登録に関する記述を実状に合わせ、修正を行った。

第5条 チームの登録は、その年度毎に行うものとする。(6月30日を最終期限)。新規登録はその年度内認められる。いずれも、全国大会支部予選までに登録を完了していないチームは、その全国大会に出場することができない。なお、登録は、**当法人所定の方法により、支部長の確証をもって提出するものとする。**

支部に追加登録のあった場合も上記の通りとする。なお、小学生・中学生・高等学校・大学に限り、年度初めの登録とは別に、8月21日から9月30日までチームの選手登録の変更を認める。

第6条 支部は登録されたチームに変更のあった場合、及び取り消した場合は、直ちにその内容を当法人に届け出なければならない。登録されたチームの選手は、その年度内他のチームに登録することができない。もし選手が移籍した場合には、その選手は当該年度内のすべての支部、地区及び本大会への出場権を喪失する。登録されたチームの監督・コーチについては変更することができる。

第7条 登録を完了しないチーム及び選手は、当法人主催のすべての大会に参加できない。ただし、国民スポーツ大会については本規程は適用せず、「国民スポーツ大会実施要項」の定めるところによる。

2025「競技者必携」指導者の部 改訂・修正点

P166

公認指導者規程

第8条 指導者資格の義務化

※改訂理由(修正理由)

大学で学生以外が監督の場合は「スタートコーチ」では「不可」とし、「日本スポーツマスターズ」が「国民スポーツ大会」と同様の資格取得が義務付けられたため、その内容を明記した。

資格名	生涯種別	学生種別	競技種別
公認ソフトボール スタートコーチ	○	○ ※大学は学生以外が 監督をする場合は不可	×
公認ソフトボール コーチ1	○	○	○
公認ソフトボール コーチ2	○	○	○
公認ソフトボール コーチ3	○	○	○
公認ソフトボール コーチ4	○	○	○
公認ソフトボール 準指導員	○	○	○
公認スタートコーチ (教員免許状保持者)	以下4大会のみ可 ・全日本小学生大会 ・春季全日本小学生大会 ・全日本中学生大会 ・都道府県対抗全日本中学生大会	以下1大会のみ可 ・全国高等学校選抜大会	×

2 国民スポーツ大会の監督、また、日本スポーツマスターズ大会の監督、コーチ、またはそれに代わる代行者となり得る者は、「公認ソフトボールコーチ1」「公認ソフトボールコーチ2」「公認ソフトボールコーチ3」「公認ソフトボールコーチ4」のいずれかの資格を取得すること。

3 日本リーグ、一般社団法人日本女子ソフトボールリーグ機構（以下、「JD リーグ」という。）加盟チームの監督及びコーチは「公認ソフトボールコーチ3」又は「公認ソフトボールコーチ4」の資格を有すること。

4 日本を代表して国際大会に派遣するチームのヘッドコーチ及びコーチは、「公認ソフトボールコーチ3」又は「公認ソフトボールコーチ4」の資格を有すること。